

《宗教改革記念礼拝》

主 日 礼 拜

③夜7時～

③石井師

③石井師

③石井師

聖歌233番 & 「イエスは愛で満たす」

②マルコによる福音11章20～26節

②「神の力を解き放つ祈り」石井 潤牧師

[献金当番：青木姉・千鶴子姉]

【司会者】

「The Family Song」

《今週のお知らせ》

- 1.本日第二礼拝後12時～、納骨堂前にて「秋の召天者記念礼拝」を行います。
- 2.今週の祈り会は、土曜夜8時～、準備祈祷会（石井師）のみ行います。
〔木曜祈祷会はお休み、牧師は大和でのグローバル・リーダース・サミットに出席します〕
- 3.来週日曜礼拝では子供祝福式と誕生祝福式。午後はヤンチャと聖書の学び。

11/13(日):聖餐式/大掃除 17(木):大手家庭集会 20(日):執事会

27(日):収穫感謝・アドベント/ヤンチャ・聖書学会 28(月):長野家庭集会

一年に一回聖書を完読できる！ **Bible Reading Plan** [10/30～11/6]

[illegible]

「神の力を解き放つ祈り」

～主イエス様から与えられた権威によって祈る～

「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。たといその水は鳴りとどろき、あわだつとも、そのさわぎによって山は震え動くとも、われらは恐れない。」

詩篇46篇1～3節

明日10月31日は世の中ではハロウィーンのお祭りが行われます。次第に日本でも当たり前のようになってきていますが、これは、キリスト教のお祭りではなく、もともとはキリスト教が伝わる前のヨーロッパの異教のお祭りで、邪気を払うという悪魔払いのお祭りです。キリスト教がその世界の人々の所に福音を伝えるようになると、ごちゃ混ぜになってしまったところもあります。しかし、本当は1517年10月31日は「宗教改革記念日」。マルチン・ルターがドイツ・ウィッテンベルグ教会の入口の扉に当時のローマ・カトリック教会に対して、95か条からなる意見書を訴えた張り紙を張り出したことに端を発して、キリスト教界全体に刺激を与え、方々で改革の嵐が吹き荒れるようになった記念の日です。そしてそれは教会が再び生まれ変わった瞬間でした。

その時ルターは孤独を経験しました。しかし、支持者もあり、その人物たちにかくまわれる中で、ラテン語聖書しかなかったその時代に庶民の言葉であったドイツ語に聖書を訳していききました。そのことが始まりとなって、どんどん聖書が諸国語に訳されていくようになります。

その戦いの中で、ウィッテンベルグ教会の瓦がすべて悪魔に変わったとしても、自分は決して妥協しないし、戦いをやめない。そのような強い決意がルターにはありました。

宗教改革の三つの柱は、①「信仰義認」 ②「万人祭司」 ③「聖書のみ」でした。

イエス・キリストを信じるだけで神に義と認められて救われ、すべてのクリスチャンは祭司として、皆、神の前に、仕えることができ、聖書だけを神の言葉として受け止め、積極的にその聖書の言葉通りに生きていく、それこそが、新の救いの道、証の道です。

ルターは注意深く「聖書」を読んでいました。もともと神学校も出た秀才中の秀才。しかし、この戦いのためにルターは必死に祈ったことでしょう。そして、上記の詩篇の「御言葉」に支えられながら、前に進んでいきました。主は必要な時に必要な形でみことばをもって私たちを励まし導きます。それは、「万人祭司」、主に与えられた「権威」をそれぞれに与えられています。その権威をもっともっと具体的に、積極的に用いていきたいと願っています。病の癒しも、問題の解決も与えられたいと願いますが、もっとも大きなテストは、「信仰のテスト」です。それにクリアしないとなかなか、解放された人生を歩むことができないのです。